



朝鮮における

『宗鏡録』の受容

柳 幹康

九六一—九六四年に延寿が編んだ『宗鏡録』は、その後中国のみならず朝鮮の仏教にも大きな影響を与えました。今回はその様子を見て参ります。

『宗鏡録』が朝鮮半島に伝わるのは、その編纂後間もなくのことです。当時朝鮮を統治していた高麗の第四代国王光宗クワグシヨク（在位九四九—九七五）は『宗鏡録』を読んで感激し、使者を遣わし延寿に弟子の礼をとりました。また高麗の多くの僧が延寿のもとに留学し、三十六名が法を得て帰国、うち少なくとも四名が王師ないし国師に任じられています。光宗がかくも延寿とその法嗣を尊んだ背景には、当時国内に乱立していた仏教諸派を延寿の系譜により統合しようという光宗の思いがありました。

その教団は第十一代国王文宗ムンシヨクの子義天ウイチヨク（一〇五五—一一〇一）が伝えた天台宗に吸収さ

れてしまいました。延寿の著作はその後

読み継がれていきます。高麗中期に活躍した

当時を代表する高僧知訥チヌル（一一五八—一二一

〇）は、延寿の『宗鏡録』をはじめ膨大な仏

典を引用し、教と禅を包摂する総合的な仏教

体系を構築しています。ただし知訥は単純に

延寿の思想を継承したわけではなく、延寿の

没後に成立した看話禅を延寿の思想に結び

つけたり、宗密シヨウミツの所説に立脚して延寿の頓悟

頓修（仏心を看取し仏として活きる道）を

捨象シヤクシヤウし頓悟漸修（仏心の看取後も煩惱の除去

に励む道）を説くなど、独自の改変を加えて

います。また知訥と親交があり、天台宗の中

興を果たした了世リョウセ（一一六三—一二四五）は

天台宗の立場から、延寿が列挙する百二十種

の邪見の克服を試みています。このほか一二

一三年には知訥の弟子の慧謙ヘンケン（一一七八—

二三四）により、『宗鏡録』から要文を抜粋

した『宗鏡撮要』一巻が刊行されました。

一四世紀に高麗が滅び李氏朝鮮が立つと、

朱子学が国教となり仏教は抑圧されるよう

になります。やがて仏教教団は消滅の危機に

瀕しますが、豊臣秀吉の朝鮮出兵に際して僧

侶が防衛戦や戦後交渉で活躍したことによ

り、かろうじて存続を許されました。一九一

〇年の日韓併合により李氏朝鮮が滅ぶと、朝

鮮仏教は総督府の直接管理のもと一九一二

年に「禅教両宗」、一九四一年に「曹溪宗」

と宗名を改めます。やがて一九四五年の終戦

を期に植民地時代と決別するため宗名を「朝

鮮仏教」に改めましたが、九年後に「曹溪宗」

に戻し、一九六二年に独自の法統——九世紀

に禅を伝えた道義トウイを宗祖、先述の知訥を重闡ジュンケン

祖、一四世紀に元から看話禅を伝えた普愚フウを

中興祖チュウキウソとする系譜——を定めました。

その後一九八〇年代に入り、延寿の『宗鏡

録』を用いて「正法」を宣揚したのが性徹ソクテ（一九二二—一九九三）です。彼は曹溪宗ソクシヨウの宗正ソクシヨウ（代表）を歴任した禅僧で、知訥チニョクら頓悟漸修を唱える人々を「知解チケの宗徒ソクテ」（禅を正しく体得せず観念的に解釈する輩）と厳しく批判する一方、延寿が提示する頓悟頓修を正しき禅の実践とし、『宗鏡録』を「竜樹リョウジュ以降最も偉大な著述」と讃えました（『禅門正路』）。更に二〇一六年には性徹門下の支援のもと、韓国の延世大学ヨンセ校で「永明延寿——頓悟・見性・無心」と題する国際学会が開催され、延寿の修証論や性徹への影響をめぐり活発な議論が為されています。

このように延寿の『宗鏡録』は韓国において、過去の遺物ではなく生きた宗教書として、今なお多くの人々の関心を集めているのです。

【附記】

拙稿の執筆にあたり以下の先行研究を参照しました。金龍泰『韓国仏教史』（春秋社、二〇一七年）、黄公元「永明延寿の高麗弟子及其对海東佛教的深遠影響」（『呉越仏教』八、二〇一三年）、崔鈺植「『韓国近代仏教』近代化と独立の道」（『新アジア仏教史10 朝鮮半島・ベトナム 漢字文化圏への広がり』佼成出版社、二〇一〇年）、朴仁錫「永明延寿의 無心論과 후대 영향」（『禅学』四五、二〇一六年）。また性徹の『宗鏡録』受容について、崔鈺植氏（東国大学教授）、小河寛和氏（同博士課程）より貴重なご教示を頂戴しました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

柳幹康（やなぎみきやす）

一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士（文学）。現在花園大学国際禅学研究所専任研究所員・専任講師。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究——一心による中国仏教の再編』（法藏館）。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の官製はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

*ㄨ切りは毎月1日です。

花園へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園 係

*住所、氏名を必ずお書きください。

*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

*なお投稿はお返しいたしません。

花園
hanazono

「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

【花園】第68巻 第1号(通巻第797号)
平成30年1月1日発行(毎月1日発行)
定価55円

【発行人】栗原正雄

【編集人】畠中寿浩

【印刷人】喜田眞司

【発行所】〒616-8035 京都市右京区花園
妙心寺派宗務本所 教化センター
振替／01060-9-1400番
電話／075-463-3121番

表紙の絵 「笑う門には福来たる」



「お兄ちゃんががんばって！」おかしな顔
になっていく福笑いに、じっと見ていら
れない妹です。 絵・SAYOKO

妙心寺派ホームページ…………… <http://www.myoshinji.or.jp>
臨黄ネットワーク(臨済宗・黄檗宗全般)…………… <http://rinnou.net>

『花園』誌一冊送りの年間購読料は、1,560円(送料込)です。
お申し込み・お問い合わせは頒布課まで。

*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。